



特別賞

設計部門



築地川公園～都心の街区公園の改修

株式会社森緑地設計事務所

山元 誠・菅原智子・藤田 一・紀伊國友紀・石坂佑圭

築地川公園は中央区明石町に位置し、隣接して聖路加国際病院や築地本願寺や築地場外市場があり、働く人や観光客など昼間人口の多い地域です。本公園は、かつての築地川の川床の一部が首都高速10号晴海線の一部となる予定でトンネル化され、その上にできた公園です。したがって公園は延長371mの細長い形状をしています。完成後30数年が経過し、施設の著しい老朽化や利用者のニーズの変化に対応できなくなっていることから、区民に支持され愛される公園に向けて改修することになりました。

コンセプト

街区をつなぎ、人々の暮らしに潤いを与える緑の帯

～地域の環境の質を高める公園

築地川に築かれた細長い公園の近隣には二つの地下鉄駅があり、公園の周囲を大学や病院やオフィスやマンションなどのビルに囲まれ、大勢の人々の生活の場となり、30数年前に作られた当時は周囲の環境が大きく異なります。こうした環境の変化に合わせて、築地川公園には新たな役割が求められています。すなわち、街区をつなぎ歩行者動線として、近隣で働く人々や居住者に潤いを与える場として、そして近隣の緑と一体となって地域環境の質を高める緑の帯としての役割です。

作品概要

作品名—— 築地川公園～都心の街区公園の改修
所在地—— 東京都中央区明石町10番2号
発注—— 東京都中央区役所水とみどりの課
設計—— 株式会社森緑地設計事務所
設計協力—— 小林弘明 株式会社バセオ
エム設備設計 君塚光男 松下文子
監理—— 中央区役所水とみどりの課
施工—— 王子・富士建設共同企業体
設計期間—— 平成28年7月～平成31年3月
施工期間—— 平成30年8月～令和2年3月
規模—— 10,410㎡
主要施設—— エントランス広場、せせらぎ、芝生広場
子どもの遊び場 お花見広場 デイキャンプ場
草地広場 紅葉の林 春の庭他

作品評

本作品は、周囲に大学やオフィス、マンションなどが建ち並ぶ立地にあり、築地川支川のトンネル上にある「築地川公園」の改修設計を行った業務である。
応募者は、地域の歴史的背景や社会的・自然的条件、公園の利用状況などを丁寧に調査し、再整備に向けて、公園内部の改善に留まらず街区公園として地域に果たす役割を再構築し、人々の暮らしや地域環境に資するコンセプトを実現するために一貫性ある設計を行っている。
築地川公園では現在、サラリーマンや親子連れ、高齢の方など多くの人々が休憩、遊び、ランチ、スマホ・パソコンの操作をするなど、屋外で思い思いに過ごしている。コロナ禍の状況の中で身近な公園の存在と活用が見直されており、本作品はニューノーマルの動向に対応する公園の活用方法を示唆する改修設計であり、まさに今回の特別賞にふさわしいと評価された。今後の利活用の展開が期待される作品である。

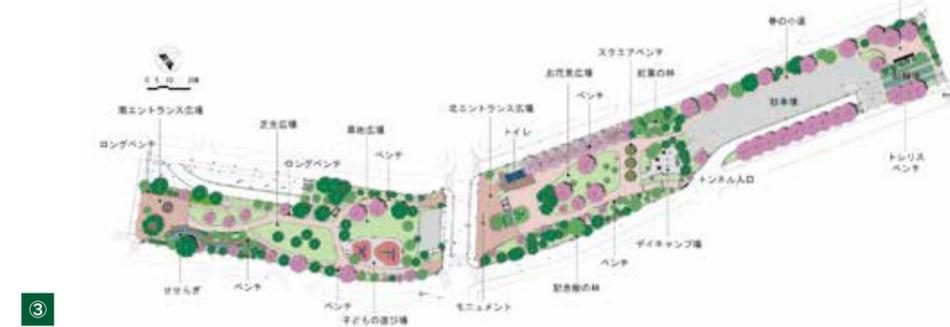
設計部門



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

①築地川公園の位置 ②子供のあそび場付近の断面図 ③全体平面図 ④既存のモニュメントを活かしたエントランス
⑤せせらぎ沿いの散策路 ⑥お花見広場と休憩スペース ⑦子供のあそび場と草地広場

再整備の具体的展開

かつての川を樹木や芝生に覆われた緑の帯に代え、その中を移動する人、散策する人、ベンチで憩う人、芝生や遊具で遊ぶ親子など、人々の日々の暮らしに潤いを与える場として設計しました。とりわけ、昼間人口の多い地域であるため、近隣で働く人々がお気に入りの場所で心地よい時間を過ごすように十分な量のベンチを配置しました。

トンネル上部の公園とは思えないほど緑豊かな景観づくりを行うとともに、安全安心の観点から見通しの良い空間づくりが求められており、これらを両立すべく、既存の樹木を活かしながら、新たに四季の色どりが楽しめる高木と低木・地被による

見通しの良いすっきりとした景観づくりを行いました。

既存の公園はハンディキャップのある人には不親切なつくりでした。改修後の公園は、健康者のみならず、車いす利用者からベビーカー利用者や高齢者まですべての人に愛され、利用しやすい公園を目指して設計しました。

川の記憶を公園にとどめるために、古い備前橋と暁橋と堺橋の橋名板をかつての橋の近くに解説板とセットで設置するとともに、水の記憶として自然な雰囲気のあるせせらぎを象徴的に設け、潤いのある空間整備の一端としました。